



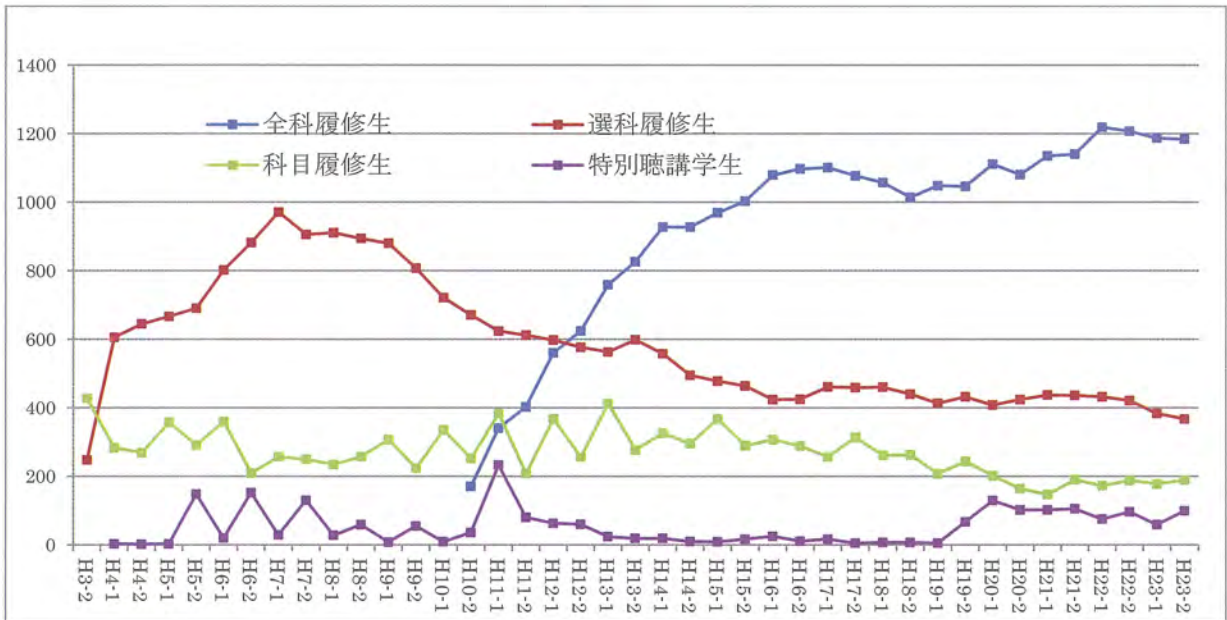
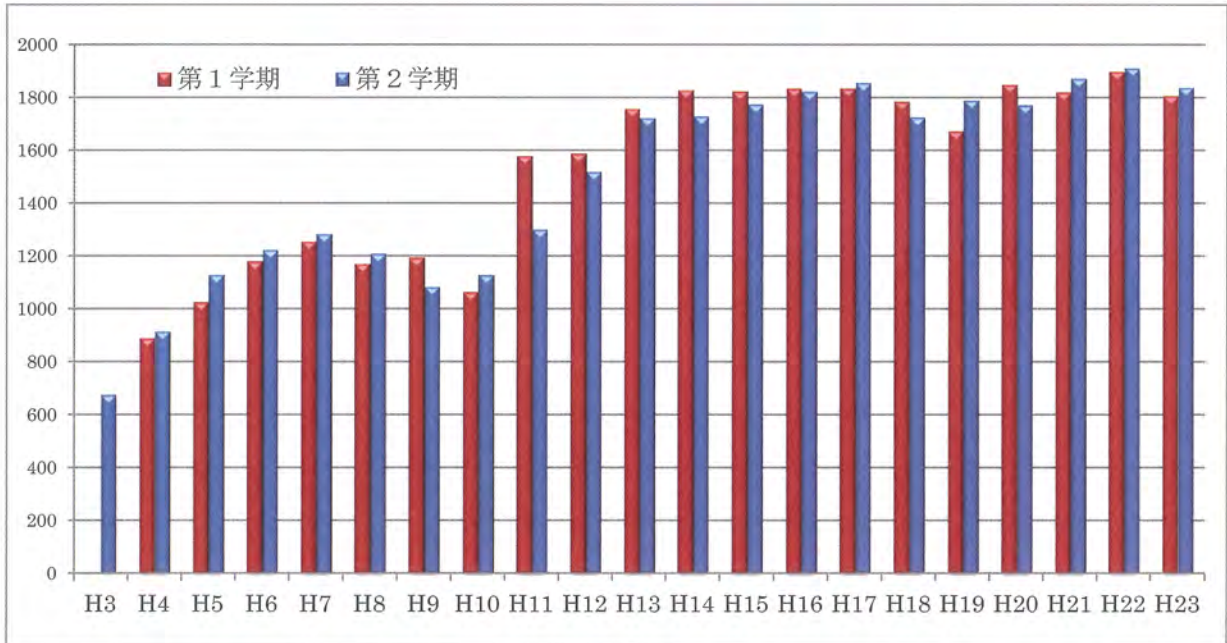
放送大学 宮城学習センター

開設20周年記念資料集

沿 革

年 次	月	事 項
昭和 56 年 (1981 年)	7	放送大学学園設立
昭和 58 年 (1983 年)	4	放送大学設置
昭和 60 年 (1985 年)	4	授業開始 (関東地区で学生受入れ開始)
平成元年 (1989 年)	4	第 1 回卒業式の挙行
平成 3 年 (1991 年)	10	宮城地域ビデオ学習センター設置 (選科履修生・科目履修生の受入れ開始)
平成 4 年 (1992 年)	10	気仙沼視聴学習室開所
平成 6 年 (1994 年)	6	宮城地域学習センターに改組
平成 10 年 (1998 年)	1	衛星 (CS) 放送による授業番組等の全国放送開始
	4	宮城学習センターに改組
	10	全科履修生の受け入れ開始 (全学習センター)
平成 13 年 (2001 年)	4	放送大学大学院設置
平成 14 年 (2002 年)	4	放送大学大学院授業開始 (修士全科生・修士科目生の受入れ開始)
平成 15 年 (2003 年)	10	放送大学学園が「特殊法人」から「特別な学校法人」に移行
平成 16 年 (2004 年)	3	最初の大学院 (修士課程) 学位記の授与
平成 17 年 (2005 年)	4	修士選科生の受入れ開始
平成 21 年 (2009 年)	4	教養学部 3 コース 6 専攻を 1 学科 5 コースに再編 大学院 1 研究科 1 専攻 4 プログラムを 6 プログラムに再編
	4	角田視聴学習室開所
平成 22 年 (2010 年)	4	石巻視聴学習室開所
平成 23 年 (2011 年)	10	宮城学習センター開設 20 周年 記念事業として放送大学附属図書館・仙台市民図書館所蔵コレクション 展「日本残像～幕末・明治の古写真と日本の昔話～」及び講演会を実施
	10	デジタル放送による放送授業の放映開始

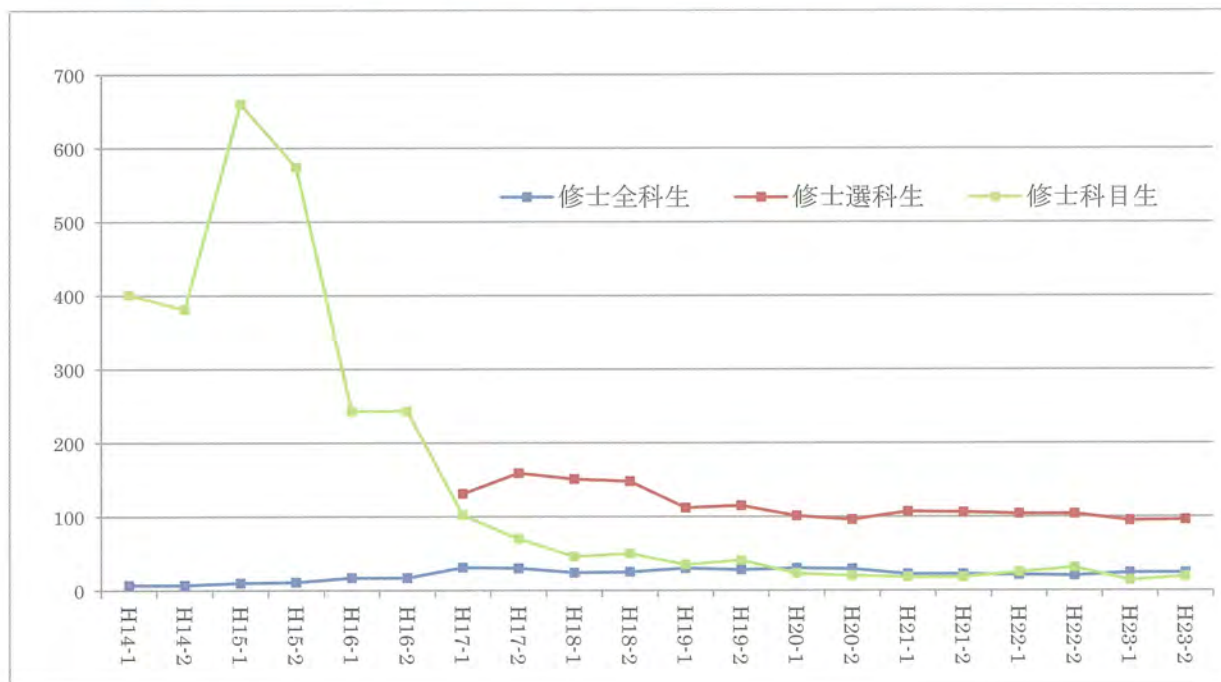
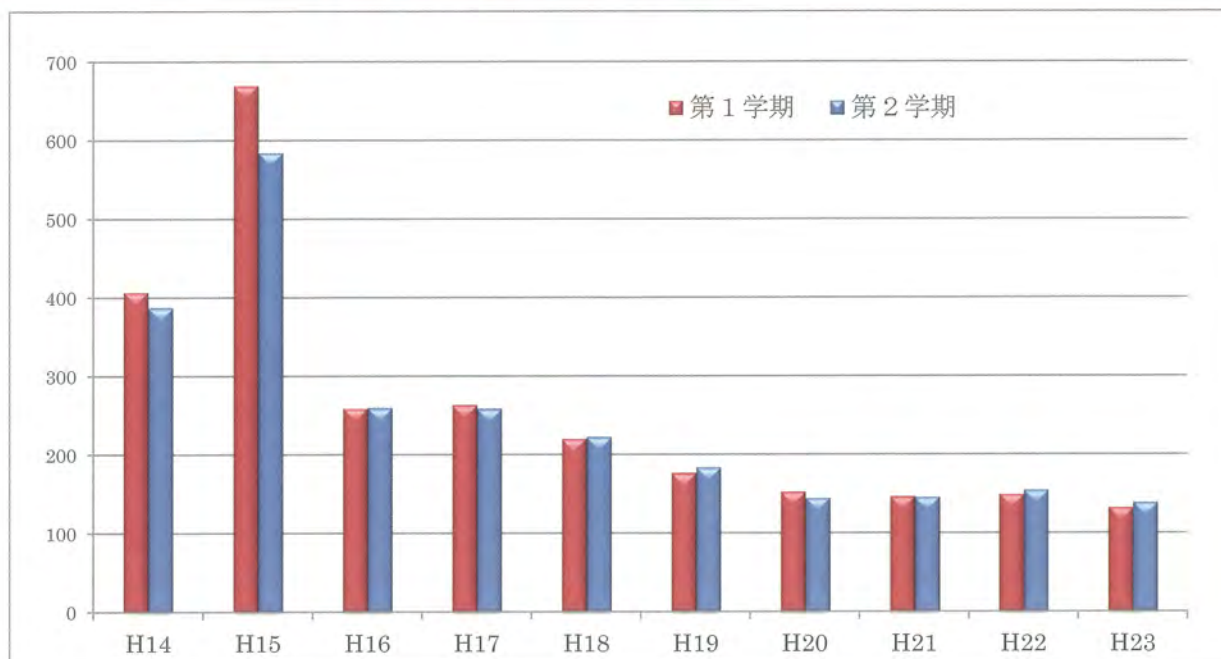
在学者数の推移【教養学部】



年度・学期	平成3年度		平成4年度		平成5年度		平成6年度		平成7年度		平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		
学生種別	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	
全科履修生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	170	340	402	560	624	759	826		
選科履修生	-	248	606	645	667	691	802	882	971	906	911	894	880	807	721	671	624	612	598	577	563	599	
科目履修生	-	427	283	269	357	291	359	209	257	249	234	257	307	223	335	252	383	208	367	256	411	277	
特別聴講学生	-	-	3	2	3	148	20	134	29	130	28	59	8	55	9	36	233	80	63	60	24	19	
合計	-	675	892	916	1,027	1,130	1,181	1,225	1,257	1,285	1,173	1,210	1,195	1,085	1,065	1,129	1,580	1,302	1,588	1,517	1,757	1,721	

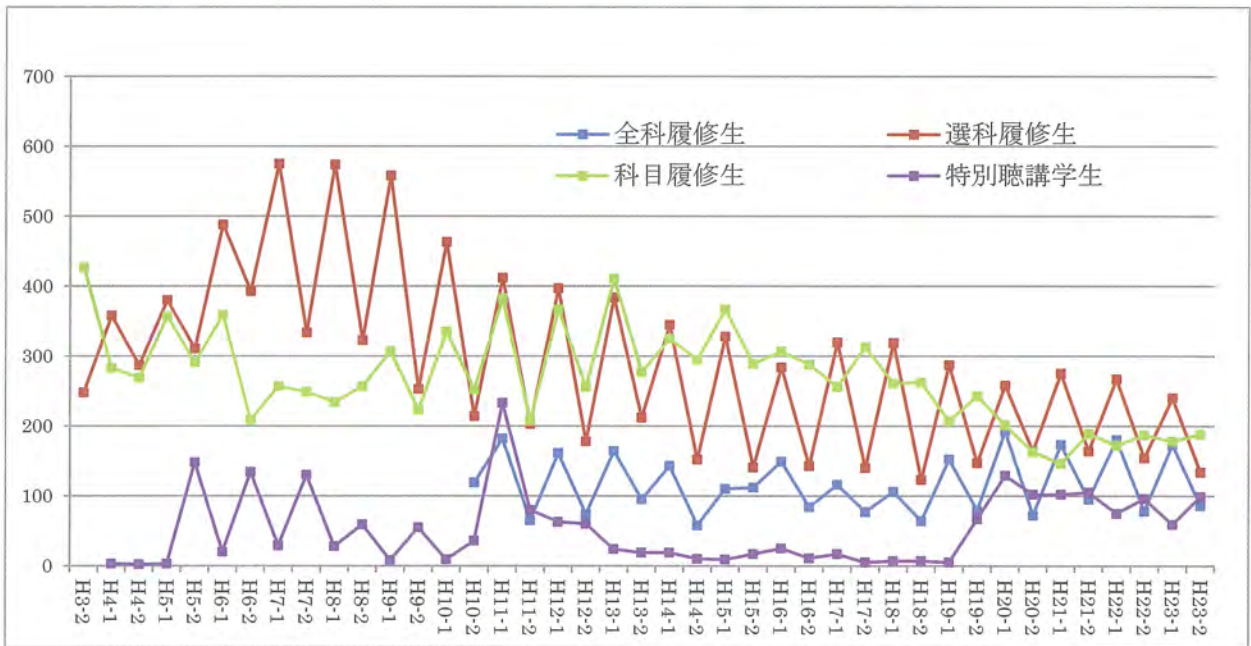
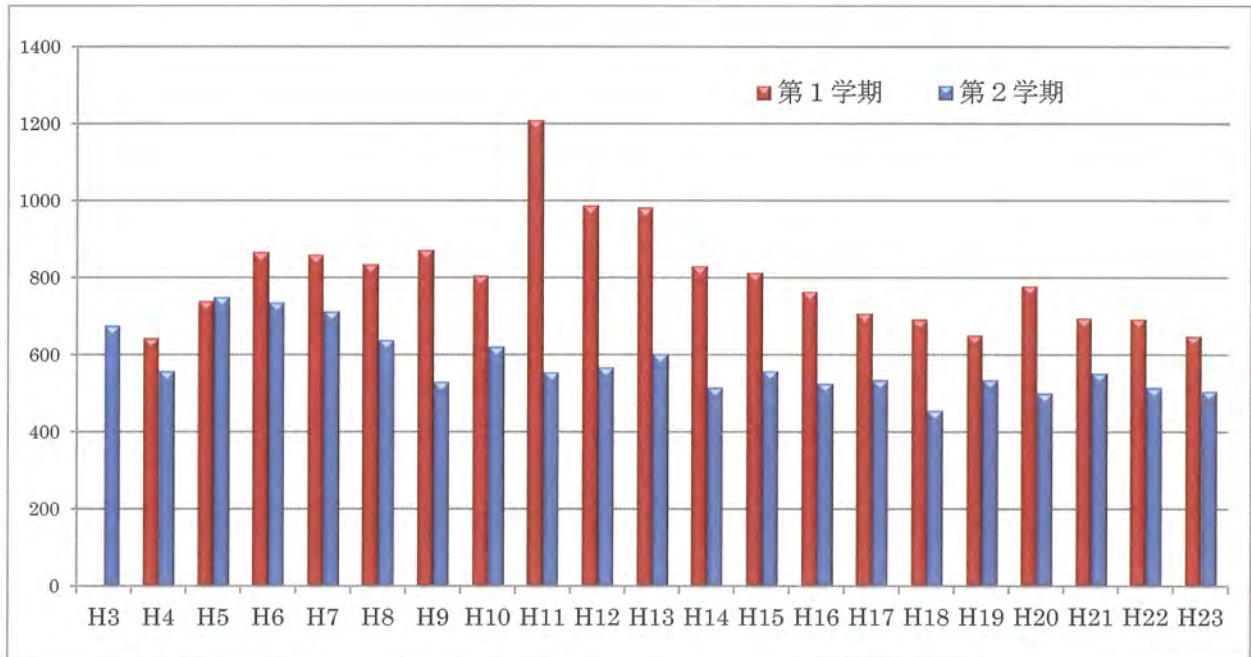
年度・学期	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
学生種別	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
全科履修生	927	927	969	1,003	1,079	1,097	1,101	1,077	1,057	1,014	1,048	1,046	1,111	1,080	1,135	1,140	1,219	1,207	1,187	1,184
選科履修生	558	495	478	464	424	425	461	459	460	440	413	432	408	424	437	436	432	421	383	367
科目履修生	325	295	367	289	307	288	256	313	261	262	207	243	201	163	146	189	172	187	178	188
特別聴講学生	19	10	9	17	25	11	17	5	7	7	5	67	129	102	102	105	75	96	59	99
合計	1,829	1,727	1,823	1,773	1,835	1,821	1,835	1,854	1,785	1,723	1,673	1,788	1,849	1,769	1,820	1,870	1,898	1,911	1,807	1,838

在学者数の推移【大学院】



年度・学期	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
修士全科生	7	7	10	11	17	17	31	30	24	25	30	28	30	29	22	22	21	20	24	24
修士選科生	—	—	—	—	—	—	131	159	151	148	112	115	101	96	107	105	104	104	95	96
修士科目生	401	381	660	574	243	243	102	70	46	50	35	41	23	20	18	18	25	31	14	19
合計	408	388	670	585	260	260	264	259	221	223	177	184	154	145	147	146	150	155	133	139

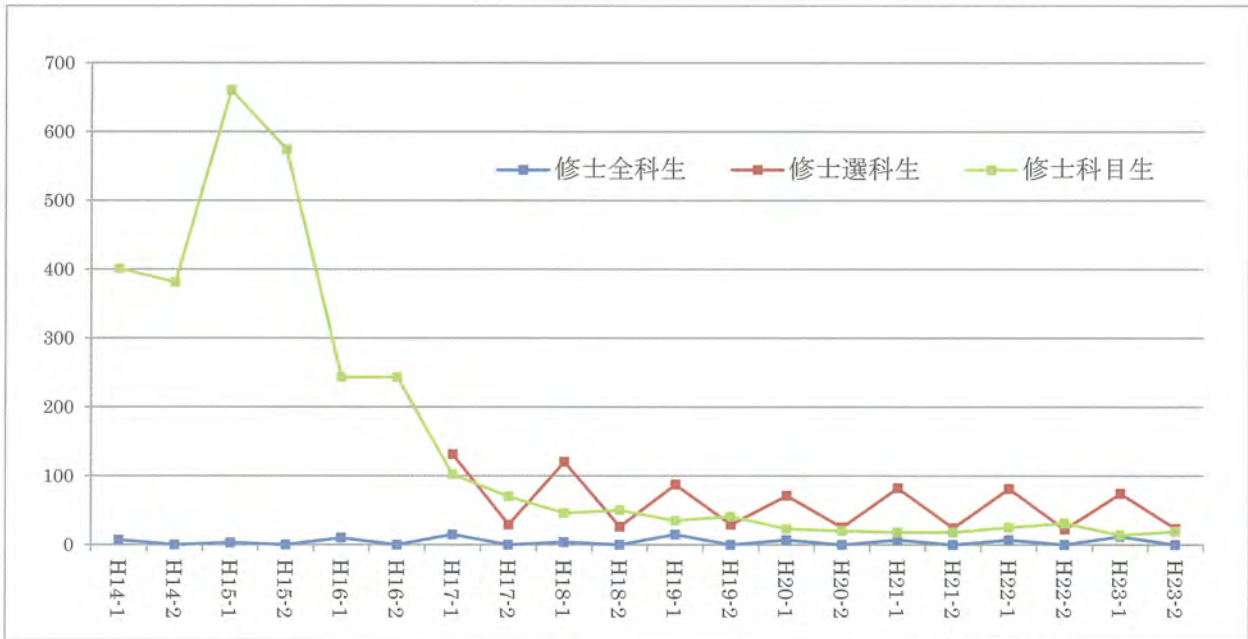
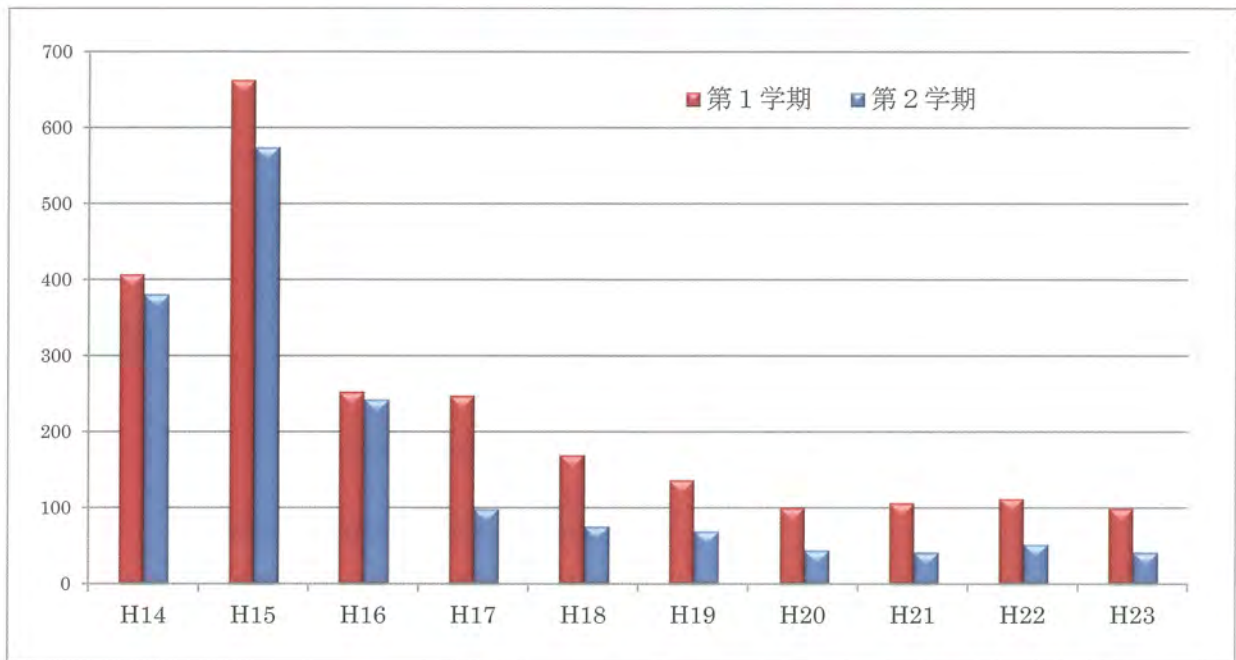
入学者数の推移【教養学部】



年度・学期	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度											
学生種別	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期										
全科履修生	-	-	-	-	-	-	-	-	119	182	65	161	74	164	95							
選科履修生	-	248	358	287	380	311	488	393	575	334	574	323	558	253	463	214	412	203	397	178	384	212
科目履修生	-	427	283	269	357	291	359	209	257	249	234	257	307	223	335	252	383	208	367	256	411	277
特別聴講学生	-	-	3	2	3	148	20	134	29	130	28	59	8	55	9	36	233	80	63	60	24	19
合計	-	675	644	558	740	750	867	736	861	713	836	639	873	531	807	621	1,210	556	988	568	983	603

年度・学期	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度										
学生種別	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期										
全科履修生	143	58	110	112	149	84	116	77	106	64	152	79	192	72	173	95	180	78	173	86
選科履修生	345	152	328	141	284	143	320	140	319	123	287	147	258	164	275	164	267	154	240	134
科目履修生	325	295	367	289	307	288	256	313	261	262	207	243	201	163	146	189	172	187	178	188
特別聴講学生	19	10	9	17	25	11	17	5	7	7	5	67	129	102	102	105	75	96	59	99
合計	832	515	814	559	765	526	709	535	693	456	651	536	780	501	696	553	694	515	650	507

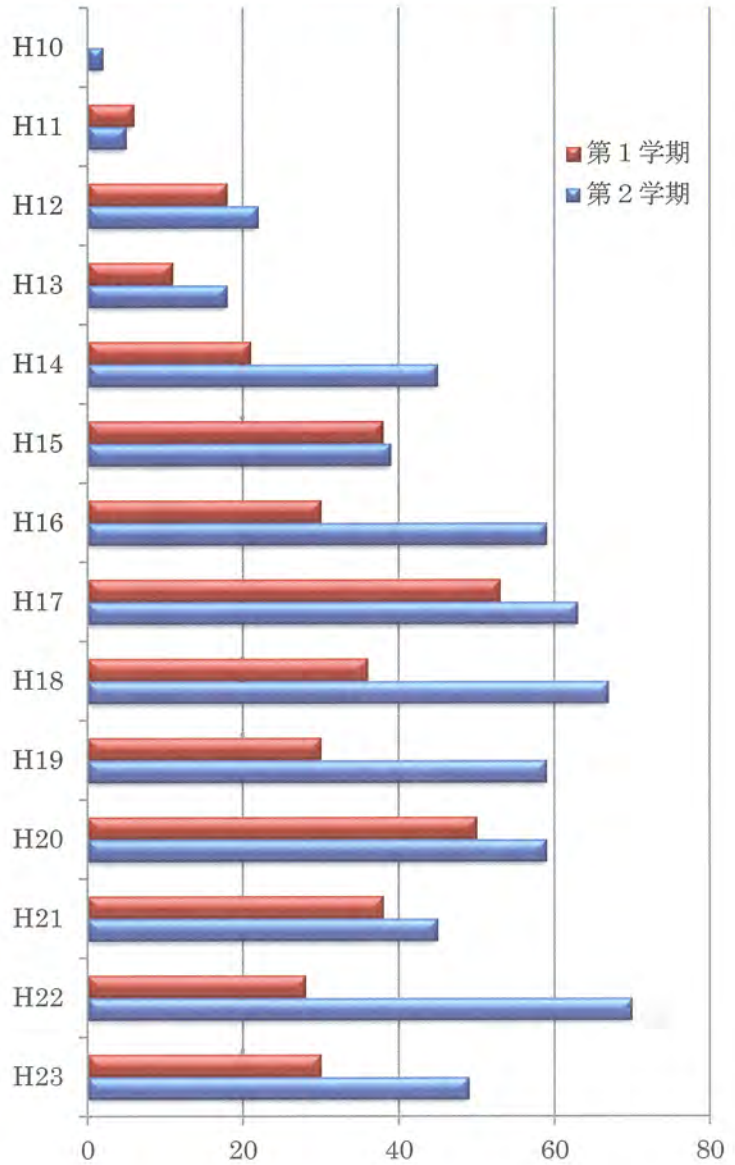
入学者数の推移【大学院】



年度・学期	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期		
修士全科生	7	-	3	-	10	-	15	-	4	-	15	-	7	-	7	-	7	-	12	-
修士選科生	-	-	-	-	-	-	131	29	120	26	87	29	71	25	82	24	81	22	74	23
修士科目生	401	381	660	574	243	243	102	70	46	50	35	41	23	20	18	18	25	31	14	19
合計	408	381	663	574	253	243	248	99	170	76	137	70	101	45	107	42	113	53	100	42

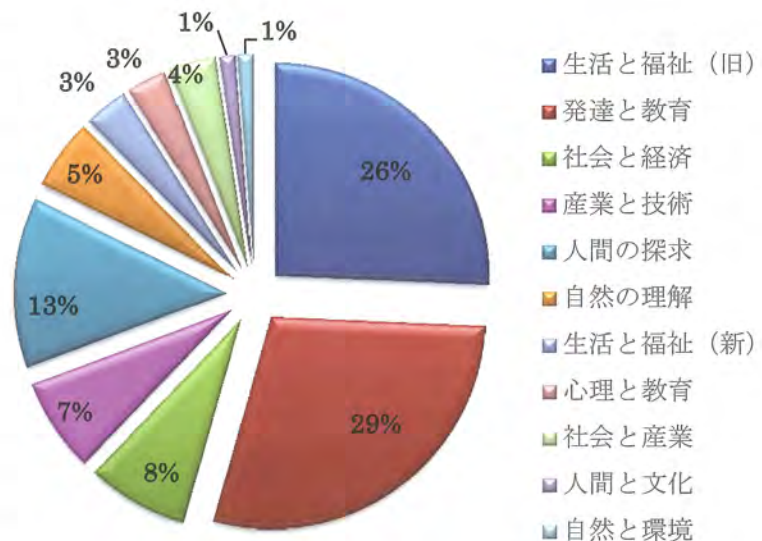
卒業生数の推移【教養学部】

年度	学期	人数
平成10年度	第2学期	2
平成11年度	第1学期	6
	第2学期	5
平成12年度	第1学期	18
	第2学期	22
平成13年度	第1学期	11
	第2学期	18
平成14年度	第1学期	21
	第2学期	45
平成15年度	第1学期	38
	第2学期	39
平成16年度	第1学期	30
	第2学期	59
平成17年度	第1学期	53
	第2学期	63
平成18年度	第1学期	36
	第2学期	67
平成19年度	第1学期	30
	第2学期	59
平成20年度	第1学期	50
	第2学期	59
平成21年度	第1学期	38
	第2学期	45
平成22年度	第1学期	28
	第2学期	70
平成23年度	第1学期	30
	第2学期	49
合計		991



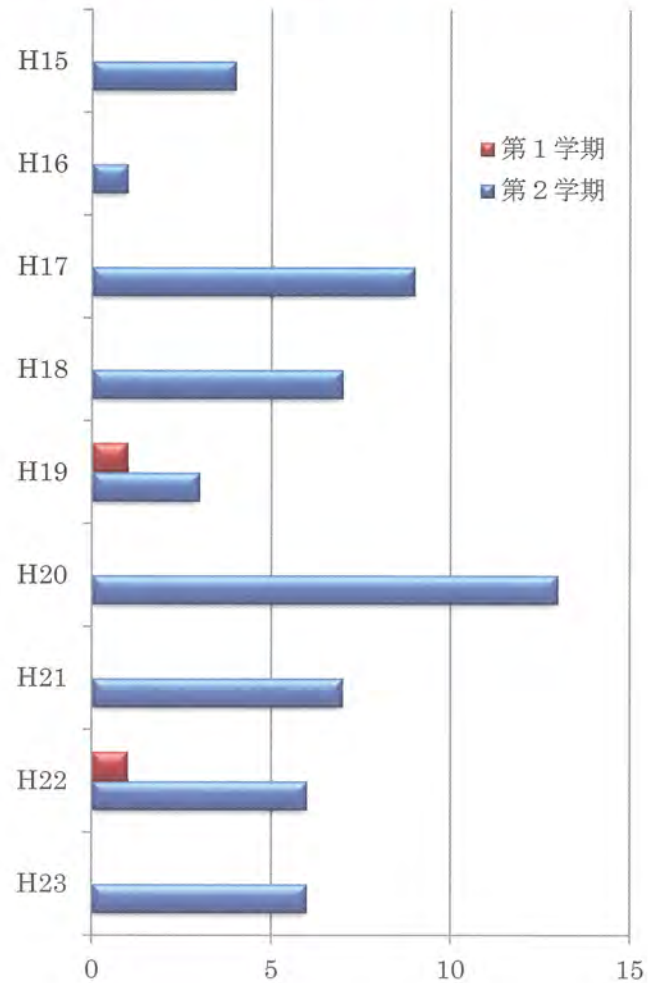
●専攻（コース別）卒業生数

	専攻（コース）	人数
旧カリキュラム	生活と福祉	255
	発達と教育	284
	社会と経済	77
	産業と技術	71
	人間の探求	129
	自然の理解	53
新カリキュラム	生活と福祉	33
	心理と教育	30
	社会と産業	35
	人間と文化	12
	自然と環境	12
合計		991



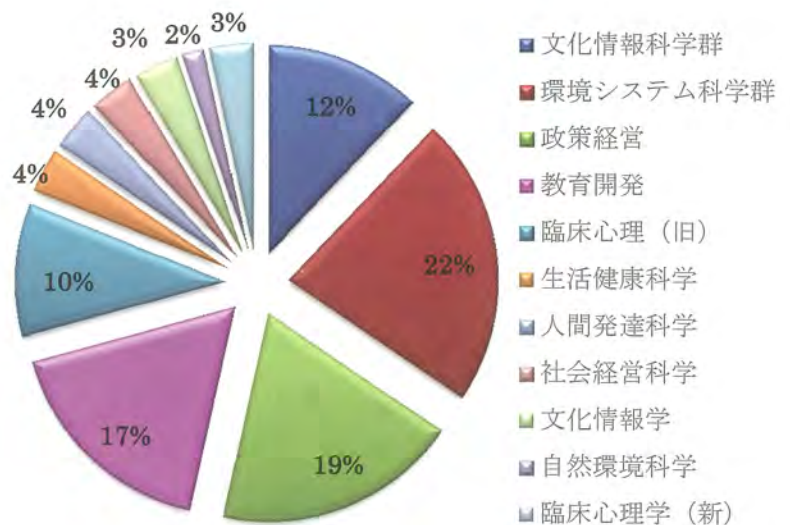
修了者数の推移【大学院】

年度	学期	人数
平成15年度	第2学期	4
平成16年度	第1学期	0
	第2学期	1
平成17年度	第1学期	0
	第2学期	9
平成18年度	第1学期	0
	第2学期	7
平成19年度	第1学期	1
	第2学期	3
平成20年度	第1学期	0
	第2学期	13
平成21年度	第1学期	0
	第2学期	7
平成22年度	第1学期	1
	第2学期	6
平成23年度	第1学期	0
	第2学期	6
合計		58



●プログラム別修了者数

	プログラム	人数
旧カリキュラム	総合文化 文化情報科学群	7
	環境システム科学群	13
	政策経営	11
	教育開発	10
	臨床心理	6
新カリキュラム	生活健康科学	2
	人間発達科学	2
	社会経営科学	2
	文化情報学	2
	自然環境科学	1
	臨床心理学	2
合計		58



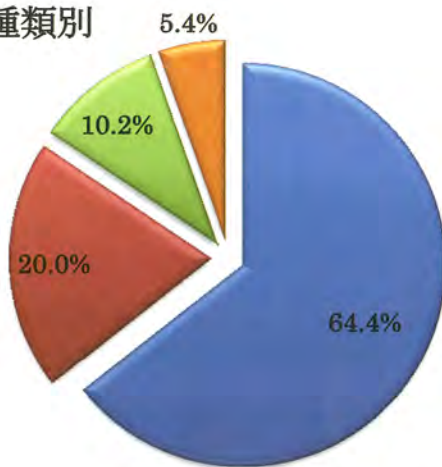
在学生の属性【平成23年度第2学期】

【教養学部】 合計1,838人

● 学生種別別、男女別（単位：人）

学生種別		性別	宮城学習センター		
			男	女	計
全科履修生	生活と福祉 (旧 生活と福祉)		59 (19)	261 (94)	433
	心理と教育 (旧 発達と教育)		48 (18)	145 (37)	248
	社会と産業 (旧 社会と経済)		103 (21)	51 (6)	181
		(旧 産業と技術)	(19)	(3)	22
	人間と文化 (旧 人間の探求)		81 (27)	81 (21)	210
	自然と環境 (旧 自然の理解)		54 (14)	19 (3)	90
		計	345 (118)	557 (164)	1,184
選科履修生			151	216	367
科目履修生			84	104	188
特別聴講学生			82	17	99
合計			780	1,058	1,838

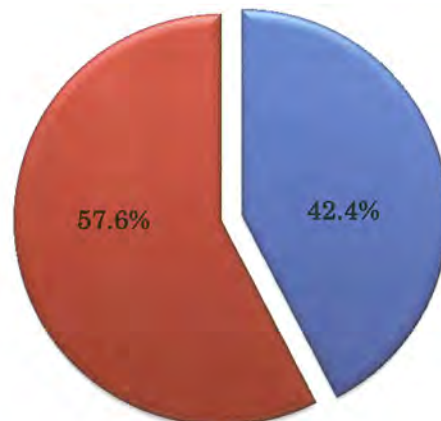
学生種別別



■ 全科履修生 1,184人
 ■ 選科履修生 367人
 ■ 科目履修生 188人
 ■ 特別聴講学生 99人

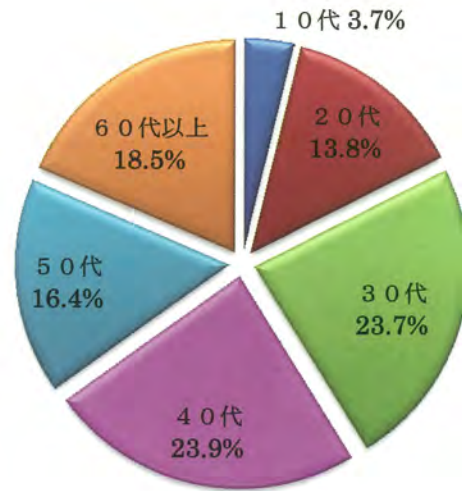
男女別

■ 男性 780人
 ■ 女性 1,058人



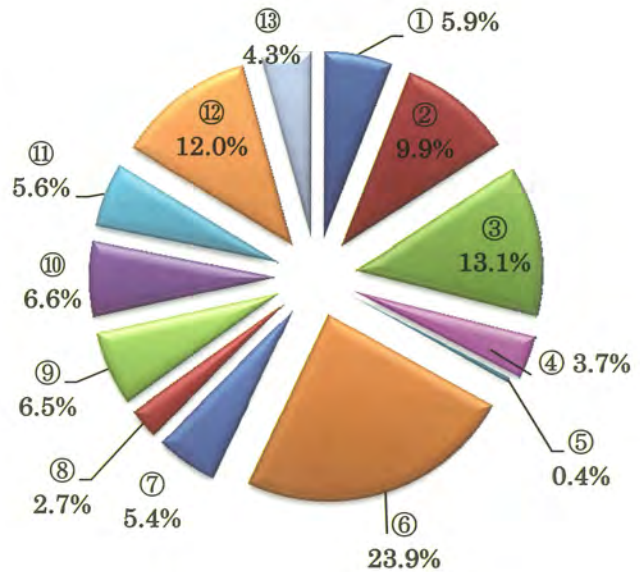
● 学生年代別

年代	人数
10代	69
20代	253
30代	435
40代	439
50代	302
60代以上	340
合計	1,838



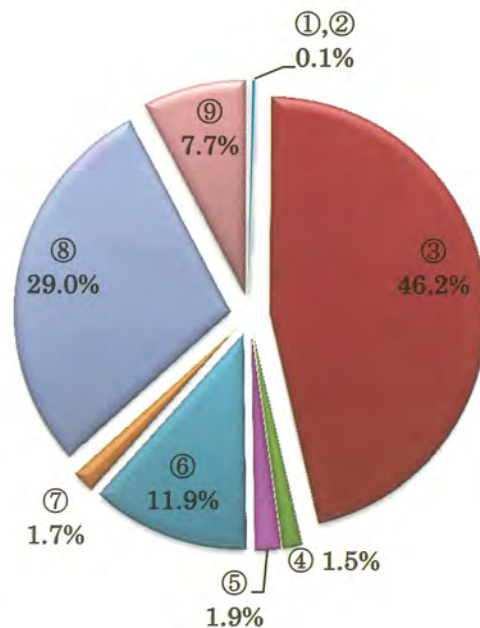
● 学生職業別

職業	人数
①教員	108
②公務員・団体職員等	182
③会社員等	241
④自営業・自由業	68
⑤農林水産業等従事者	8
⑥看護師等	440
⑦専業主婦(夫)	99
⑧パートタイマー	49
⑨アルバイト等	119
⑩他大学・専門学校等に在籍する学生	122
⑪定年等退職者	103
⑫無職(専業主婦(夫)・定年等退職者以外)	220
⑬その他	79
合計	1,838



● 学生最終出身学校別

最終出身学校	人数
①旧制青年学校等	1
②旧制の中学校等	1
③高等学校等	850
④新制の中学校等	27
⑤専修学校・高等課程等	35
⑥専修学校専門課程等	218
⑦大学校等	31
⑧大学等	533
⑨短期大学等	142
合計	1,838

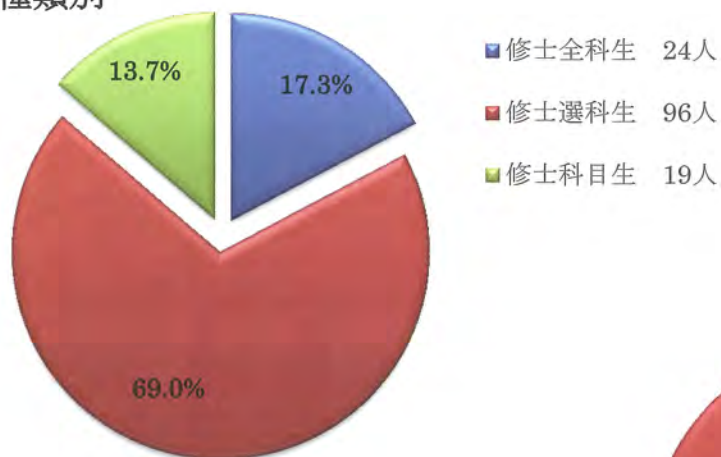


【大学院】 合計 139人

● 学生種類別、男女別（単位：人）

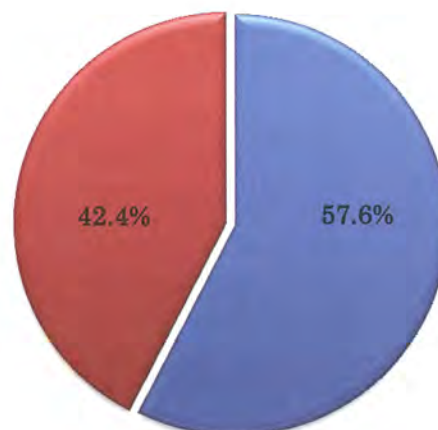
学生種別			性別	宮城学習センター		
				男	女	計
修士全 科生	旧 プログラム	総合文化 プログラム	文化情報科学群	0	0	0
		環境システム科学群	1	0	1	
		政策経営プログラム	1	0	1	
		教育開発プログラム	1	1	2	
		臨床心理プログラム	0	0	0	
	新 プログラム	生活健康科学プログラム	0	3	3	
		人間発達科学プログラム	5	0	5	
		臨床心理学プログラム	0	1	1	
		社会経営科学プログラム	3	0	3	
		文化情報学プログラム	2	2	4	
		自然環境科学プログラム	3	1	4	
	計			16	8	24
	修士選科生			50	46	96
修士科目生			14	5	19	
合 計			80	59	139	

学生種類別



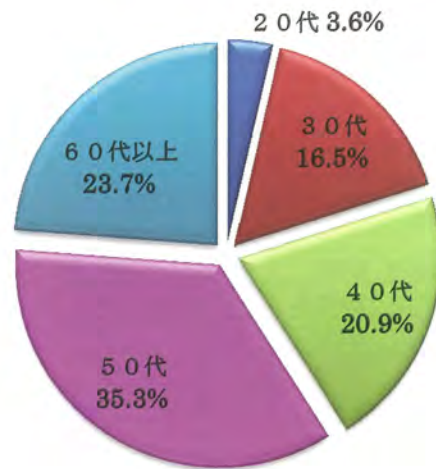
男女別

■ 男性 80人
■ 女性 59人



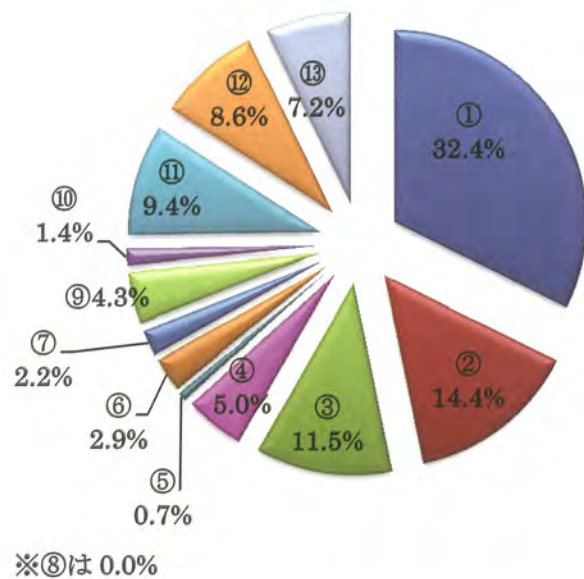
● 学生年代別

年代	人数
20代	5
30代	23
40代	29
50代	49
60代以上	33
合計	139



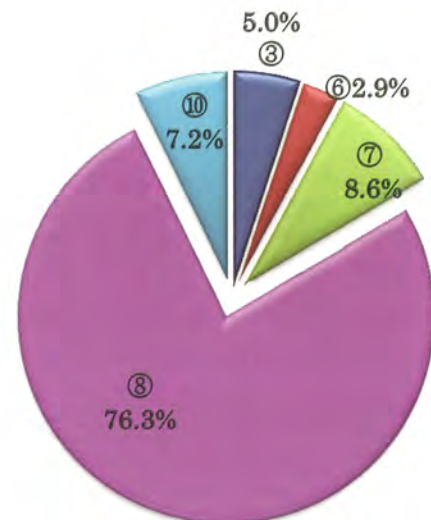
● 学生職業別

職業	人数
①教員	45
②公務員・団体職員等	20
③会社員等	16
④自営業・自由業	7
⑤農林水産業等従事者	1
⑥看護師等	4
⑦専業主婦(夫)	3
⑧パートタイマー	0
⑨アルバイト等	6
⑩他大学・専門学校等に在籍する学生	2
⑪定年等退職者	13
⑫無職(専業主婦(夫)・定年等退職者以外)	12
⑬その他	10
合計	139



● 学生最終出身学校別

最終出身学校	人数
①旧制青年学校等	0
②旧制の中学校等	0
③高等学校等	7
④新制の中学校等	0
⑤専修学校・高等課程等	0
⑥専修学校専門課程等	4
⑦大学校等	12
⑧大学等	106
⑨短期大学等	0
⑩大学院	10
合計	139



地域別学生数の変遷【教養学部】

平成14年度～平成18年度

市町村名	年度・学期	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
県中部	仙台市 青葉区	526	428	549	470	412	504	494	496	502	461
	宮城野区	126	126	137	115	116	124	128	125	122	127
	若林区	111	97	104	101	90	85	80	82	70	77
	太白区	234	239	205	202	204	210	209	209	214	202
	泉区	199	195	200	199	197	198	188	185	188	173
	石巻市	47	61	60	51	54	47	64	53	57	65
	塩竈市	34	34	33	23	21	18	15	13	44	38
	多賀城市	29	25	23	26	20	24	25	31	25	28
	東松島市	14	15	16	15	14	14	19	11	20	20
	宮城郡 松島町	7	5	8	7	9	9	10	12	9	9
	七ヶ浜町	6	5	8	7	12	12	9	8	11	10
	利府町	20	21	19	22	22	23	27	27	20	19
	黒川郡 大和町	12	16	9	12	11	10	7	7	7	5
	大郷町	0	0	1	1	1	0	0	1	2	1
	富谷町	15	20	14	16	21	27	26	29	26	26
大衡村	2	3	3	3	5	5	6	8	5	4	
牡鹿郡 女川町	7	7	6	5	6	6	2	2	2	1	
県北部	大崎市	45	49	59	58	68	61	52	53	46	45
	気仙沼市	52	60	50	52	59	57	50	44	45	40
	登米市	26	25	28	48	46	46	41	30	40	44
	栗原市	30	29	26	25	24	26	25	15	24	25
	加美郡 加美町	1	3	2	4	7	8	9	7	7	5
	色麻町	1	0	0	0	2	2	4	3	5	3
	遠田郡 涌谷町	12	11	13	10	11	13	11	12	10	8
	美里町	11	11	13	12	12	9	11	14	14	12
	本吉郡 南三陸町	4	4	3	7	9	10	7	6	5	5
県南部	白石市	15	11	12	11	13	16	15	14	19	18
	名取市	48	48	35	42	44	43	40	48	42	50
	角田市	10	8	14	15	14	12	12	10	11	11
	岩沼市	28	27	18	21	26	17	30	37	26	23
	刈田郡 蔵王町	4	5	4	3	5	3	3	3	3	3
	七ヶ宿町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	柴田郡 大河原町	12	9	9	8	10	10	11	11	11	10
	村田町	4	5	7	7	3	4	2	2	1	5
	柴田町	26	20	21	29	31	28	36	26	22	23
	川崎町	4	3	2	2	3	4	2	4	3	3
	伊具郡 丸森町	4	3	5	6	5	3	4	4	4	4
	亶理郡 亶理町	18	14	12	16	13	13	18	17	14	13
	山元町	18	15	11	16	15	13	11	12	6	7
県内計	1,762	1,657	1,739	1,667	1,635	1,714	1,703	1,671	1,683	1,624	
他都道府県	岩手県	10	11	11	12	11	13	17	17	18	14
	山形県	9	5	10	10	10	9	6	5	6	9
	福島県	37	38	46	55	55	51	57	59	57	52
	その他	11	15	16	29	39	34	52	16	21	24
県外計	67	69	83	106	115	107	132	97	102	99	
不明							86				
合計	1,829	1,726	1,822	1,773	1,750	1,821	1,835	1,854	1,785	1,723	

平成19年度～平成23年度

市町村名	年度・学期	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
県中部	仙台市 青葉区	442	416	435	369	382	392	406	380	382	381
	宮城野区	118	116	133	122	125	121	144	160	140	149
	若林区	73	89	82	82	92	98	109	109	110	112
	太白区	188	197	190	196	210	203	203	214	215	221
	泉区	161	189	187	197	198	198	195	204	203	198
	石巻市	59	67	66	77	86	88	92	94	76	70
	塩竈市	38	36	30	30	30	30	27	23	24	32
	多賀城市	32	36	34	34	35	35	26	29	37	33
	東松島市	13	19	25	23	19	20	28	31	23	27
	宮城郡 松島町	12	17	14	14	15	13	11	10	8	8
	七ヶ浜町	10	10	6	5	4	5	5	6	6	3
	利府町	22	31	32	34	38	44	36	33	36	33
	黒川郡 大和町	4	5	9	7	6	7	9	8	9	11
	大郷町	2	1	4	3	4	4	3	3	2	2
	富谷町	24	25	31	28	21	27	28	29	22	20
大衡村	4	3	3	4	3	4	4	3	2	2	
牡鹿郡 女川町	3	4	4	2	2	2	2	3	2	2	
県北部	大崎市	49	54	73	66	59	64	62	66	51	56
	気仙沼市	40	42	38	37	30	35	31	32	32	28
	登米市	41	45	40	32	34	29	25	30	23	25
	栗原市	22	23	27	21	23	21	26	30	33	28
	加美郡 加美町	6	6	7	11	12	12	12	10	8	8
	色麻町	2	3	2	2	2	0	2	0	0	1
	遠田郡 涌谷町	8	8	11	12	14	13	10	10	8	8
	美里町	13	17	18	13	14	14	15	16	9	11
	本吉郡 南三陸町	6	7	4	4	1	2	1	2	3	3
	白石市	16	20	21	20	20	20	20	18	23	26
県南部	名取市	60	76	62	60	69	65	67	54	49	55
	角田市	15	16	25	26	27	31	28	27	24	25
	岩沼市	27	30	32	26	32	34	34	28	24	24
	刈田郡 蔵王町	4	4	4	4	5	5	6	5	6	4
	七ヶ宿町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	柴田郡 大河原町	8	14	15	14	13	14	13	12	11	16
	村田町	5	6	7	7	6	7	9	10	9	9
	柴田町	23	43	42	61	51	75	64	67	53	72
	川崎町	5	6	3	2	2	2	2	2	4	3
	伊具郡 丸森町	5	7	9	8	9	8	8	10	8	7
	亶理郡 亶理町	12	13	13	18	19	22	21	23	24	22
	山元町	5	6	5	6	6	9	8	8	5	3
	県内計	1,578	1,707	1,743	1,677	1,718	1,773	1,792	1,799	1,704	1,738
	他都道府県	岩手県	11	9	12	10	14	16	18	20	19
山形県		8	7	8	6	6	5	5	5	6	6
福島県		54	52	66	63	70	61	63	67	51	56
その他		22	13	20	13	12	15	20	20	26	24
県外計	95	81	106	92	102	97	106	112	102	100	
不明											
合計	1,673	1,788	1,849	1,769	1,820	1,870	1,898	1,911	1,806	1,838	

地域別学生数の変遷【大学院】

平成14年度～平成18年度

市町村名	年度・学期		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
県中部	仙台市 青葉区	60	66	100	80	46	42	48	49	44	45	
	宮城野区	21	21	38	29	17	18	15	19	11	15	
	若林区	15	19	28	19	8	11	12	14	10	10	
	太白区	30	32	58	68	32	27	26	29	27	26	
	泉区	53	53	94	74	33	35	34	33	29	28	
	石巻市	18	19	46	34	10	13	11	6	8	11	
	塩竈市	6	5	16	13	5	3	3	3	5	5	
	多賀城市	8	6	9	9	3	3	3	4	4	3	
	東松島市	3	7	9	8	2	1	3	3	2	2	
	宮城郡 松島町	7	2	6	4	2	1	3	3	2	1	
	七ヶ浜町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	利府町	9	9	20	9	4	3	4	3	1	2	
	黒川郡 大和町	8	4	9	11	6	5	3	3	3	3	
	大郷町	0	0	0	1	1	1	1	0	1	1	
	富谷町	8	6	14	13	3	5	4	3	2	3	
大衡村	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0		
牡鹿郡 女川町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
県北部	大崎市	28	26	39	52	16	19	20	20	13	12	
	気仙沼市	2	2	9	7	4	3	1	1	2	4	
	登米市	28	21	32	24	5	3	6	5	7	8	
	栗原市	29	19	26	25	9	12	11	10	7	5	
	加美郡 加美町	8	3	5	3	3	2	2	0	0	0	
	色麻町	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	
	遠田郡 涌谷町	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	
	美里町	8	6	16	6	3	1	2	2	2	3	
	本吉郡 南三陸町	0	0	2	3	0	1	1	1	0	0	
	白石市	5	6	10	13	4	2	2	2	2	1	
県南部	名取市	11	19	27	23	13	13	10	8	9	7	
	角田市	4	3	3	2	1	2	3	2	1	1	
	岩沼市	13	10	14	17	9	10	6	6	4	5	
	刈田郡 蔵王町	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2	
	七ヶ宿町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	柴田郡 大河原町	7	7	9	10	3	6	5	4	2	2	
	村田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	柴田町	2	3	7	7	3	4	3	3	3	3	
	川崎町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
	伊具郡 丸森町	2	0	1	1	1	0	1	1	1	2	
	亶理郡 亶理町	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	
	山元町	1	0	1	1	3	3	3	3	3	2	
	県内計	399	379	658	575	250	250	247	241	207	212	
他都道府県	岩手県	1	1	3	2	3	3	5	6	4	4	
	山形県	1	1	1	1	1	1	3	2	2	2	
	福島県	7	7	8	6	5	6	8	8	4	4	
	その他	0	0	0	1	1	0	1	2	4	1	
県外計	9	9	12	10	10	10	17	18	14	11		
不明												
合計	408	388	670	585	260	260	264	259	221	223		

平成19年度～平成23年度

市町村名	年度・学期	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
県中部	仙台市 青葉区	33	32	25	27	33	32	38	39	34	31
	宮城野区	14	13	13	10	11	11	11	13	12	11
	若林区	7	7	3	4	4	2	3	3	3	3
	太白区	16	15	14	15	16	17	19	18	18	22
	泉区	22	25	25	25	17	16	13	14	13	15
	石巻市	9	11	6	2	2	2	5	6	6	7
	塩竈市	4	5	2	2	3	3	3	2	3	3
	多賀城市	4	5	5	3	2	2	3	5	5	4
	東松島市	0	0	1	1	1	3	2	1	1	1
	宮城郡 松島町	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
	七ヶ浜町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利府町	3	2	1	1	1	1	1	3	3	3
	黒川郡 大和町	2	2	0	0	0	0	0	1	1	1
	大郷町	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	富谷町	1	1	1	1	3	3	3	2	1	3
大衡村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牡鹿郡 女川町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県北部	大崎市	9	7	5	4	5	9	14	12	9	7
	気仙沼市	5	4	3	2	4	5	4	3	2	2
	登米市	8	8	6	6	5	4	4	4	3	5
	栗原市	4	5	4	3	4	3	2	3	1	3
	加美郡 加美町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	色麻町	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0
	遠田郡 涌谷町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	美里町	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1
	本吉郡 南三陸町	0	0	1	1	2	2	2	2	0	0
	白石市	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
県南部	名取市	5	8	5	6	7	6	5	7	5	5
	角田市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩沼市	5	6	7	7	4	3	2	1	1	1
	刈田郡 蔵王町	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0
	七ヶ宿町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	柴田郡 大河原町	3	5	4	3	2	1	1	1	0	1
	村田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	柴田町	3	3	3	4	3	3	4	4	3	3
	川崎町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	伊具郡 丸森町	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	亶理郡 亶理町	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	山元町	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0
	県内 計	167	174	140	132	134	133	143	148	127	133
他道府県	岩手県	3	3	4	4	4	3	2	2	2	3
	山形県	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0
	福島県	4	4	4	4	7	8	5	5	2	3
	その他	1	1	3	4	1	1	0	0	2	0
県外 計	10	10	13	13	13	13	7	7	6	6	
不明											
合 計	177	184	153	145	147	146	150	155	133	139	

平成23年度の記録

東日本大震災の記憶
学生の震災体験談
開設20周年記念事業

東日本大震災の記憶

事務長 メモより

3月11日(金) 午後2時46分 曇り一時雪
マグニチュード9、栗原市で震度7、仙台市宮城野区震度6強

- ・突如襲った大きな揺れは、なかなか収まらない。横揺れは強弱をつけながら長く長く続いた。天井から白い粉が降ってくる。天井のエアコンが激しくゆれ、パチパチと音がしてとうとう停電となってしまった。
 - ・長く続く揺れの合間を縫うように学生さんや客員教員が次々と玄関前に飛び出してきた。15時過ぎ大きな声を出しながら所内を確認したが、取り残された者はなく、40名ほど在所者は全員無事玄関前に避難できたようだ。
 - ・図書室は放送教材・資料が散乱。視聴学習室や講義室の机はかなりぐちゃぐちゃに動いたが、大きな被害はなさそう。
 - ・内壁は大きな損傷はないが、いたるところにヒビが入っている。外壁も、東側等に亀裂が入っている。
 - ・第一講義室前の教材展示ケースが、落下、破損。
 - ・県外からの携帯電話は受信できるが、発信はできない。本部への発信も何度も試みるが不通。ラジオの情報が入るが「岩手県で大きな津波が来た。注意を要す。東北から関東までの太平洋側で大きな地震と津波」など、断片的な情報であるがとてつもない規模であることが予想できた。
 - ・学習センター前の道路は車が徐々に詰まって、ほとんど動かなくなってきており、既に自家用車での帰宅は無理な状況である。
 - ・16時、余震が続いており、日も落ちてくることから、当日の作業は無理と見て「整理のため、当分の間閉所します」と玄関前に学生用掲示。水道蛇口や電気器具の点検をした後、自宅の整理を優先して、目処がついた職員は明日10時以降集まり、放送教材の整理を始める旨を伝え、解散とした。
 - ・大粒の雪が降ってきた。一足先に帰路についた図書職員が傘を取りに戻り、広瀬川沿いの道路が崩れ通行できなくなっているとの情報。
 - ・徒歩で帰宅、脇道は全く車が進んでいない。仙台で最初の100メートルを超えたビルであるSS30の屋上の電波タワーは半分から上部が無くなっている。家の外に避難している人に声掛けすると、「家の外は大丈夫だが中はめちゃくちゃで、物はみんな踊っている」とのこと。国道に出ると信号機が点いている。信号機はこの界隈のメイン道路のみ点いていた。地盤の良い学習センターと他の地域では、被害のレベルが相当違うことの認識が深まり、10時招集を悔やんだ。
 - ・コンビニは、多くの人が列を作っている。メモと電卓を叩きながら暗い店内で販売している。公衆電話を見つけたが、大勢が並んでなかなか進まない。17時30分ごろ自宅マンションに着くが、当然エレベーターは動いていない。長い階段を上りやっとの思いで着いた家は、とても入れる状態ではない。周辺のざわつきも尋常ではない。駐車場の車の中で家族が待機していた。既に薄暗く、近くの避難施設はいずれも満杯で、1歳の孫娘を連れてはとても入れないとのこと。13キロほど離れた仙台市郊外の実家に自家用車で向かう。渋滞が激しい。高速道路に向かう車線は3車線のうち2車線が塞がれている状態で、ほとんど動いている様子がない。信号機もない真っ暗な道路は、いつもの見慣れた道とはまるで様子が違い、道を間違えているのではと錯覚する。動かないメイン道路を避け、2時間掛けて無事到着した。
 - ・当日有休の名取市関上地区居住の職員から、「家は流されたようだが家族全員無事で避難所にいる」との連絡を携帯電話で受信。相当地頑張ったの連絡と思われた。他は携帯メールでも連絡がとれない。
 - ・ろうそくでの夜明かし。ラジオ放送で被害の規模が徐々に認識できてくる。
 - ・在所していた職員のうち、最も遠方の所長は、近隣の職員と一緒に13キロほどの道のりを徒歩で帰宅、途中運よくタクシーを拾えたとのこと。
- 学生・30名ほどの在所学生は全員16時には全員帰路についた。ある学生は、持病を抱えながらも20数キロの道のりを歩いた。途中トイレがなく非常に難儀の末、22時にやっと家に到着したとのこと。
- 報道・マグニチュード8.8 東北・関東大震災。各地で死者の情報が入っている。釜石市や陸前高田市は津波で壊滅状態、多数の車が流されている。東北地方のほとんどの地域が停電している。気仙沼市で火災発生している。電気、ガス、水道は寸断されている。東北道は不通。被害想像を絶する規模の様相。
- ・この被害規模では、明日の作業は無理と思われたが、連絡ができない。

3月12日(土) 晴れ

- ・停電、断水、都市ガス遮断(暖房、照明、トイレなし)。10時 近郊在住の職員が思いがけず全員出勤した。「家の整理は夜のうちにろうそくの明かりで何とかして、職場の整理に備えたという職員」「家の中はぐちゃぐちゃでも被害はそんなにないよ」「家の中がめちゃくちゃは皆さん同じでしょうから」など。申し訳ないと思いつつも、一日も早い復旧のため作業に取り掛かった。各室の清掃・整理、教材整理を開始。全ての部屋に壁から落ちた白い粉末が落ちている。時計がその時刻を刻んだまま落ちている。放送教材はケースが壊れ、ケースから飛び出して、傷が付いたものが多い。厚い作業服にカイロをつけているが、

- 建物が冷え込んでいるせいか体の芯から冷えて来る。職員の持ち寄った小さなおにぎりやお菓子で昼食を取りながらの雑談が、この日ばかりは非常に貴重な情報交換であった。
- 学生・この日の道路は嘘のように車が少ない。道路状況の不安から皆慎重な運転である。
 - 学生・若い男性学生が利用を希望して来所。当面入所は無理と伝え、今後の対応は掲示を見るよう伝えたが、非常に残念そうな表情が印象に残る。向学心の強さと生活習慣としての学習要望になんとか答えてやりたいと思ひ、早急な開所の必要性を感じた。
 - 報道・国内最大、初の巨大複合型、栗原市で震度7、死者行方不明者1,700名超、沿岸部壊滅状態、南三陸町では1万名不通、原子力緊急事態を宣言、津波は仙台新港で10メートルを記録。避難先の実家に、河北新報が届いたことは驚いた(通常32ページが8ページとなっていたが)。
 - 報道・それにしても、悲惨な写真が誌面のほとんどを覆っている。津波が多く住宅を一飲みしてしまっている。その写真を見て、始めてとんでもない事態であることを痛感できた。

3月13日(日) 晴れ

- ・停電、断水、都市ガス遮断 近郊在住の職員で図書室整理、被害教室整理・清掃を継続。東北大学施設部と打ち合わせ。大学以外は通電になっているという。「火曜日には通電が可能かも」との情報。出勤の職員から、「石巻に勤めている弟とまだ連絡が取れていないが、男だから大丈夫」と内心を明かさずに黙々と作業を続けている。気丈に話してくれたが、心配しても何も探す手段がない現状であることが、本当に異常である。職員の娘さんが炊き出しを届けてくれた。平素では本当に質素な昼食であるが、このような日におにぎりをいただけることがなんとも言えない有り難さがある。入学者の集いを予定していたアークホテル仙台も、立ち入り禁止で利用不能との情報。
- 報道・県内の死者数は万単位になる見通し、宮城2万人孤立、安否未確認は数万人、避難者は6県で45万人超、放射能漏れ半径20キロ8万人の避難指示、M9.0に修正。

3月14日(月) 曇り 閉所日

- ・前日まで、急を要する整理は終わったので、閉所日であることから出勤を要しないこととした。食料調達のためには、朝から並ばなければ確保できないし、自宅の整理もできていない。
- ・連絡の取れなかったパート職員と連絡が取れた。職員全員の無事確認、本部へ報告。無料の公衆電話は数人待ちで利用できる。携帯電話はつながりにくく、充電に苦労する。受信は海外も含め県外からのお見舞いも携帯電話に入る。自宅に戻り、家の瓦礫を整理。食器や陶器は、ほぼ全滅で、とにかくビニール袋に入れ込む作業である。テレビ、オープンレンジ、スタンド、デッキや大量にあったCD等も。下層の階はあまり壊れていないようだが、上層階は瓦礫の入ったビニール袋を大量にポーチに出している。幸い共同水槽の水はまだふんだんにあるようで、トイレ用にとやっとの思いで揚げた水も2~3度の用でなくなってしまう。普段の生活がいかに水を大量消費しているか改めて認識した。電気・水道が復旧するまでは、とても住めない。向いのコンビニは道路に面したガラス全面に新聞紙で目隠しをして、酒・タバコが少しあるだけで食べ物はなかった。
- ・買い出し：近所の小売店が、在庫品の野菜や食糧を袋に詰め、1家族で一袋限りの制約付きで格安の値段で販売、何が入っているかも分からず有り難くいただく。肉屋もコロケや総菜入りのご飯を販売していた。電気・ガスがないので暖かいご飯はありがたい。所長と電話相談で学位記授与式の中止と入学者の集いの延期を決定。
- 報道・南三陸の各港の遺体は1000名を超える。宮城県の避難者32万名超、東京電力計画停電実施、今後連日実施予定

3月15日(火) 雨後雪

- ・停電、断水、ガス遮断。東北大学施設部から、整備については金属材料研究所との調整するよう指示あり。金研に依頼し、16日に点検打合せを行うこととした。学習センターのある片平地域の住宅街は既に通電されているが、大学キャンパス内は高電圧で危険があるので徹底した点検を要すとのこと。放送教材の整理はだいぶ進んだが、傷が付いたDVD等も混ざっているので、とりあえず全科目の補充を依頼する必要があると判断した。学習センター支援室へ連絡。他センターとの動向も踏まえ当面3月21日(月)までは閉所として、放送大学HPへ掲載願った。本部から、学位記授与式を中止とするとの報告があった。所長との連絡の中で、かねてより危篤状態であったご母堂様が3月14日に逝去されたとのこと。この時期、御遺体の対応等非常に難しいようで当面、電話での報告相談で対応していくこととした。本当に災難が続く。
- 学生・昼食時に職員数名が、隣の避難施設となっている小学校へトイレを借りに行った際、補給物資をいただいていた。菓子パン1個とペットボトルに入った500mlの水道を有り難くいただく。
- 学生・年配の男性学生が来所し「自宅の整備が終わったので、整理を手伝いたい。」と申し出をいただいた。非常にうれしい申出でしたが、建物内はまだ危険もあることから気持ちのみ有り難くいただいて帰宅願った。
- 報道・JR復旧めど立たず。福島原発制御不能、事態深刻化、高濃度放射能漏出、県内死者1337名

3月16日(水) 雪一時晴れ

- ・停電、断水、ガス遮断。東北大学金属材料研究所の整備担当委員2名による通電のための所内点検が行

<p>われた。全ての電源を遮断し、全てのコンセントからコードを抜いて回った。前日まで、徹底したと思っていた作業は、やはり影の方に見たことのないコンセントが存在したりして、昔の建物の複雑さを思い知った。近隣の住宅街では通電の地区が増えてきた。避難宅でも夕方通電があり、テレビで映像と文字放送で被害状況や交通、公共施設の状況を改めて承知できた。テレビの情報量の有り難さを改めて痛感</p> <p>報道・宮城の死者2000名超。全国の死者・不明1万2千名超、ガソリン枯渇深刻、給油求め長蛇の列、対策にGS苦慮</p>
<p>3月17日(木) 晴れ一時雪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員ほぼ全員勤務、10時通電。～12時で各室ごとコンセントを入れながら安全点検、14時水道出る。漏水チェック実施全て問題なく復帰した。学習センター支援室へ連絡。HPやメールも見ることができ、大学の動きが理解できた。あらためて、電気がないことやインターネットが遮断された際のもろさを痛感した。この日、本部では関東電力管内の予測不能な大規模停電のため緊急業務以外の帰宅を促しており、東北大学からは被災地支援物資の必要数の照会が入った。 ・放送教材が当分整わないこと、市内の交通機関が動かないこと、暖房がないこと、節電等の諸条件から3月末までの図書室の閉室を決定。HP記載、報道機関へ周知依頼 <p>報道・原発冷却作業難航、震災1週間。陸海空からの輸送動脈確保が本格化し物資が届き始める。死者不明者1万5千名超</p>
<p>3月18日(金) 晴れ後曇り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の業務は通常業務を開始、窓口対応開始。本部から、学位記授与式・祝賀会の中止及び各職員の住宅の被害状況の照会メールがあった。夕方、自宅マンションに通電、水道が復活したとの連絡。1週間ぶりに帰宅 <p>学生・証明書の申し込み等の学生が数名来所</p>
<p>3月19日(土) 晴れ</p> <p>報道・死者6911名戦後最悪、阪神大震災を上回る。</p>
<p>3月20日(日) 曇り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い出し：9時前から並んで2時間待ちで店舗に入れた。終了11時15分。既に被災地方面は大渋滞で、お見舞いの予定を途中で断念。 <p>報道・公立校の新学期来月21日から、仮設住宅の建設着手、全国の死者7508名。死者行方不明2万名超。ガス供給4割ほど、復旧には1か月以内は無理、9日ぶりに80歳祖母ら2名救出。</p>
<p>3月21日(月) 曇り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員及び友人の避難施設を訪問、被災地向けの道路は混雑するため、朝7時に家を出た。避難施設の名簿で捜すと大きな体育館のどの辺にいるかをボランティアの方が教えてくれた。一人のスペースが布団1枚を敷けるスペースで、その布団を半分開けて、食事などをするスペースを作り、家族や親せきが固まって生活していた。誰かが風邪をひくと、全員罹患する雰囲気である。 <p>報道・仙台空港に米大型輸送機着、土葬を容認、ガス復旧1か月半めど、</p>
<p>3月22日(火) 晴れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の安否確認の情報収集開始 <p>報道・東北道大型車の通行制限を解除、被害額最大19兆円再建に5年（世界銀行）、ヤマト運輸再開</p>
<p>3月23日(水) 晴れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝6時から並んでガソリン20リットルを入れることができた。徹夜で並んでいた車が既に100台を超えていたが、スタンドが開店するかは判っていない状態である。8時過ぎに整理券をもらい、9時には完了した。 ・スタンドでは、当日限りの独自の印がつけられた整理券でトラブル防止に工夫がされていた。開店しないスタンドに並んでいる車も少なくなかった。 ・10キロほどの近隣被害地を視察、畑や水田が樹木と瓦礫と海水と泥と車とで満杯状態。流されてきた家に車が突っ込んでいる。沢山の車が横転してまだ中に人がいそうな雰囲気。作業要員はポツリポツリと数えるほど。積もった泥を長い棒でつついて遺体を探していると思われる。まだ、そのあたりの泥の中に埋もれている人がいるようだ。10分ほどで頭が痛くなり後ろ髪を引かれる思いで退散。 <p>報道・仙台市ガス再開の復旧は明日から随時開始</p>
<p>3月24日(木) 曇り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援室と放送教材の補充について協議。補充に即座の対応はできないこと。本部で教材の保管がないとのことで、緊急時の対応について、改めて体制整備の必要性を訴えた。

報道・東北道全面再開、仮設住宅5万戸整備へ、死者9,487名、不明者15,618名
3月25日(金) 曇り
・教材の補充は時間等の兼ね合いから、とりあえず簡易版の装丁でやむなしとした。 報道・大震災の死者 1万人を超えた。24万が避難生活
3月26日(土) 晴れ
・4月1日から開所すること、当面館外貸出不可、4月4日から学習相談開始、4月9日宮城学習センター連絡会議の開催を決定し、HP等で周知を開始した。 報道・県の死者6,333名。全国の死者・不明2万7千名超、仙台港はフェリー、タンカー入港可能に
3月27日(日) 晴れ
・退職者2名の離任式 報道・県の死者数6,565人、仙石線明日一部再開、常磐線は見通し立たない。救援物資は毛布より衣類を。汚水処理の機能停止中で節水を
3月28日(月) 晴れ 閉所日 余震石巻で5弱
3月29日(火) 晴れ
・県の被災車両14万6000台、全登録台数の1割。ビル・マンションの危険判定多数 報道・津波浸水443平方キロ中、宮城は326平方キロと突出。仮設住宅仙台・気仙沼などで着工：第一次1,110戸。仙石線一部再開。死者11,004名、不明者数17,339名
3月30日(水) 晴れ
・金属材料研究所職員による建物の被害点検を実施 報道・三陸道全面再開、県の沿岸3高校の現在地再建困難。入学式の中止は首都圏でも相次ぐ。小型船の9割壊滅。
3月31日(木) 晴れ
・震災以降約3週間。まだまだ、通常の生活には程遠い。テレビのCMは全て自粛され、公共広告機構による「心は見えないけど思いやりは見える」などの心情に訴えるさし障りのないCMが繰り返し流れている。新聞にも広告は入らない。外食は焼き肉店がオープンしているが、まともな食事ができる店は少ない。都市ガスがないことからまだ風呂は沸かせず、電気ポットなどでお湯を沸かして園芸用じょうろでシャワーにしている。調理も電子レンジと電気調理器のみでやりくりしている状態である。 学生・救援活動の合間を見て来たとのことで、修了者が学位記の受領のため来所。急遽所長を呼び、学位記授与を行った。以降4月10日の学位記郵送までの期間に7名の卒業・修了者が来所して、その都度授与を行ったが、東京での卒業式が無くなったことを残念がるが、思いがけない授与式に感動していただいた。 報道・県の被害額2兆円超。石巻市の建物は6割が被害。 ・津波浸水443平方キロ中、宮城は326平方キロと突出。仮設住宅仙台・気仙沼などで着工：第一次1110戸。仙石線一部再開。死者11004名、不明者数17339名
4月1日(金) 晴れ
・学習センター利用開始、教材の補充が間に合わず当面館内利用のみとした。 ・学習のため図書室を利用した学生さんは、十数名 報道・多賀城市、角田市の浄化センター機能が壊滅
4月5日(火) 晴れ
・10周年記念事業を開催予定のメディアテークと電話連絡、1年間利用不能状態、7階は天井が落ちている。是非実施したいが、今予定は立たない。 ・石巻市生涯学習課長からの情報 視聴施設のあるメディアシップは、23年度中は使用できない。隣のビックバンに機能を移して教材の貸出し継続の意向。 ・角田市生涯学習課長からの情報 当面視聴施設のある2階の利用はできない。 学生・来所学生が増え始め、20名ほどの学生が学習している状態となった。
4月7日(木) 23時24分 マグニチュード7.4 震度宮城野区、栗原市6強
報道・新幹線一関以北開通。三陸道、仙台東部道路渋滞目立つ
4月8日(金)
・図書室の整理のため臨時閉所とした。週休日の職員も含め全員出勤として復旧に当たった。断水、放送

<p>教材散乱2～300程度、図書ラック倒れ1、ビデオラック転倒防止用フックが壁から剥がれた箇所多数。センター内整備、書棚補強作業の実施、放送教材整備・破損教材請求を実施。運よく業者を確保することができた。</p> <p>報道・死亡2名、負傷者141名。新幹線一関以北10日まで運転見合わせ。JR全線運休。停電一時400万戸。三陸道、仙台東部道路渋滞目立つ。仙台空港13日から再開</p>
<p>4月9日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開所、大勢の学生さんが来所した。 ・宮城学習センターの所長・客員教員との連絡会議を2週間遅れで開催
<p>4月10日(日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位記の送付。直接受領に来た学生を除き、住所確認のできた学生から実施 <p>報道・震災1か月：死者13,013名、不明者14,608名、避難者151,115名</p>
<p>4月13日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動のポスティング等について、現時点の社会情勢からして好ましくないとし宮城、福島、岩手の3県の自粛を要望し、了承を得た。
<p>4月14日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習センターの都市ガス点検・復旧。これによりガス暖房が可能となった。
<p>4月15日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部学習センター支援室長が来所：修理が必要なところは、進めて可。教室の修理も必要な措置を進めて可。 ・広報課から依頼していた、被災地支援用の文具が届く。ノート(変形A4)、シャープペン、消しゴム、携帯電話充電器を4月21日に事務長が石巻市と気仙沼市へ届けた。
<p>4月16日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省政策課長・専門官が来所：文科省としての支援事業の打診・協力要請あり
<p>4月20日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長が角田市図書館訪問、4月18日から放送教材の館外貸出しを開始したが、2階の視聴施設利用は当面見送る。蔵造りの建物が多い古風な町だが、そのほとんどが白壁が剥げ落ちている。
<p>4月21日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務長が石巻市ビッグバンを訪問、視聴施設のあるメディアシップは天井が落ち、年内の復旧は無理と思われる。教材の貸出業務を隣の施設ビッグバンで行う構想があるが、現在避難所となっており、その対応のため相当な月日を要する。ビッグバンは500名を超える避難者でごった返しており、職員も疲労感が漂っている。本部からいただいた携帯電話の充電器は喜ばれたが、とても通常の雰囲気ではない。(広報課提供の文房具を持参し喜ばれた。) ・午後には、気仙沼市を訪問、教育委員会生涯学習課補佐及び市立図書館館長に面談した。海沿いの道が陥没等で不通であり、今日から学校が始まったことと重なり、大渋滞である。対応者やその関係者のほとんどが、津波や火災で家を失っていることもあり、お見舞いの言葉さえなんともしらじらしい雰囲気である。教育委員会のロビーは長いテーブルが置かれ、被災者からの申請受付にてんてこ舞いの様子。(広報課提供の文房具を持参し喜ばれた。) ・再視聴施設のある図書館2階は全ての柱が崩れており、立ち入り禁止となっていた。他に、気仙沼地区のケーブルテレビ局K-netは建物そのものが流失して、影も形もない。今、家を失っても住む家が見つかった人は運が良いのだという。今後CATVの全国協会の支援を受けて復活する予定と視聴者には説明しているとのこと。ケーブルテレビで学習していた学生さんに大きな影響が出そう。近くの全国で一番海水浴場に近いJR駅と謳っていた大谷海岸駅も何もなくなくなっていた。気仙沼市で機能している公共施設はこの図書館のみとのこと。
<p>4月30日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月遅れの入学者の集いを東北大学片平さくらホールで実施。大学の窓班も取材もあり、余震の中、大勢の学生さんが前向きな姿勢を示してくれる。先週あたりから宣伝広告もだいぶ復活し、仙台市街地を一見するだけでは被災地の様子が見られなくなってきた。

放送大学宮城学習センター全体図

2階



3階



⑪ 屋上

① 2階・図書室



3月11日(金) 14時46分本震発生後



4月7日(木) 23時32分余震発生後

② 2階・講義室(1)



③ 2階・実験室



④ 2階・自習室



⑤ 3階・所長室



⑥ 3階・講義室(2)



⑦ 3階・学生控室



⑧ 3階・保健室



⑨ 3階・図書倉庫



⑩ 3階・講義室(4)



⑩ 3階・講義室(4)



岡部学長 見舞訪問
(他学習センターから届いた応援メッセージの前で)



白井理事長 見舞訪問 (被災地の説明を受ける)



石巻



石巻



石巻



若林区



若林区



若林区



放送大学宮城学習センター開設20周年記念事業 『日本残像 ～ 幕末・明治の古写真と日本の昔話 ～』

放送大学附属図書館・仙台市民図書館所蔵コレクション展

開催日 平成23年10月13日(木)～16日(日) 会場 せんだいメディアテーク

放送大学宮城学習センターが開設20周年を迎えたことを記念して、放送大学附属図書館が所蔵する貴重な歴史的資料を広く一般市民に公開し、新しい発見と懐かしい時代の回顧、そして資料への興味を喚起していただくことにより、放送大学の使命である生涯教育の発展に寄与することを目的として、仙台市民図書館と共催により開催しました。

本展では、放送大学附属図書館が所蔵しております貴重なコレクションの中から「ちりめん本」約80点と、選りすぐりの幕末・明治期の「古写真」約200点や明治期のステレオ写真（3D写真）等も展示しました。

「ちりめん本」とは、和紙に印刷した後に独自のちりめん加工を施して、縮緬布のようなしわと手触りを持たせた本のことです。その技法は、1853年（嘉永6年）江戸に生まれました長谷川武次郎により考案されました。

色鮮やかな挿絵入りで刷られた日本昔噺や季節の挿絵が入った暦（カレンダー）は、外国人が日本土産として珍重し、人気を博したとのこと。

ちりめん本の展示では、レプリカを用意して、来場者の方々に直接手にとって手触りを体感いただきました。

「古写真」の展示では、約100年前の近代日本形成期の諸相を写真に残された全国各地の風景・風俗・人物等を中心に、目で見る歴史、として紹介しました。

これらは、日本に最初に本格的な写真技術をもたらした。イギリス人のF. アベトの作品十数点を始めとする我が国揺籃期の写真師の作品から、「横浜写真」の名で知られる外国人観光客向けの土産物として作られた絢爛豪華な漆塗り蒔絵アルバムに至るまでの作品群を一堂に集め紹介しました。



放送大学 宮城学習センター 開設20周年記念事業



日本残像

～ 幕末・明治の古写真と日本の昔話 ～




放送大学附属図書館 仙台市民図書館 所蔵コレクション展

2013年10月13日(木)～16日(日) 13:00～18:00(15:00～18:00) 最終日は14:00まで
 会場：せんだいメディアテーク 3階 〒980-0921 宮城県仙台市東区北4-9-21

企画協力：『ちりめん本』持田幸太郎のちりめん本研究会
 協賛：2013年度 仙台市民図書館
 監修：2013年度 仙台市民図書館 協賛：せんだいメディアテーク 1階
 2階 展示・受付係

問合せ：放送大学宮城学習センター 電話 622-333-6451

主催：放送大学宮城学習センター 放送大学附属図書館 仙台市民図書館
 後援：宮城県教育委員会 宮城県仙台市教育委員会 河内新聞社

入館
無料



記念講演会「美しい欧文挿絵本<ちりめん本>を楽しむ」

日時 平成23年10月15日(土) 午後2時～午後4時

講師 石澤 小枝子 梅花女子大学名誉教授

所蔵コレクション展開催期間中には、「ちりめん本」をテーマとした石澤 小枝子氏による記念講演会も同会場で開催し、120名を超える幅広い世代の方々にご来場いただきました。

講演会では、講師の石澤先生が上梓された著書『ちりめん本のすべて』（三弥井書店 2004年（平成16年））の内容を中心に、ちりめん本の歴史やよく知られている20編21冊からなる「日本昔噺」シリーズに関するお話など、貴重な写真や映像を交えながら、分かりやすくご紹介いただき、これまでちりめん本のことをあまりご存知ではなかった方にも、その魅力を知ることができる絶好の機会となりました。

また、来場者の方からは、「明治初期に日本独自の印刷技術を用いて日本文化を紹介しているのに感動した。時代の優れたものを知り、接することが大切だと思った。」「失われてきている日本人の手先の器用さを改めて知りました。美しい色遣い、細かさで正確さに感動しました。」「明治期の文化水準の高さに感心した。ちりめん本の手触りや絵の美しさは素晴らしい。」などのご感想が寄せられ、多くの方々が、日本の昔話を各国語に翻訳して海外に紹介したちりめん本という日本独自の文化とその水準の高さに驚き、その珍しさと制作技術の素晴らしさに感動し、「ちりめん本」の魅力をも十分に楽しんでいただけたようです。





コレクション展、記念講演会 アンケート集計結果

総来場者数 2,803名 (コレクション展 2,682名 記念講演会 121名)

単位：名

	来場者数		計
	コレクション展	記念講演会	
13日(木)	551		551
14日(金)	657		657
15日(土)	676	121	797
16日(日)	798		798
計	2,682	121	2,803

【アンケート回答人数 412名】

年齢	10歳代	58
	20歳代	27
	30歳代	37
	40歳代	50
	50歳代	67
	60歳代	100
	70歳代	54
	80歳代～	17
	未回答	2
	合計	412
性別	男性	149
	女性	239
	未回答	24
	合計	412

職業	教員	9
	公務員・団体職員等	26
	会社員等	56
	自営業・自由業	26
	農林水産業等従事者	1
	看護師等	3
	専業主婦(夫)	63
	パートタイマー	22
	アルバイト等	13
	他大学・専門学校等に在籍する学生	10
	定年等退職者	50
	無職[専業主婦(夫)・定年等退職者以外の方]	53
	その他	63
	未回答	17
	合計	412

ご意見・ご感想

- ・明治初期に日本独特の印刷技術を用いて、日本文化を紹介しているのに感動した、時代のすぐれものを知り、接することが大切と思った。
- ・明治時代にちりめん本という本にメルヘンとユーモアを盛り込んだ人がいたことに嬉しさを感じた。
- ・失われてきている日本人の手先の器用さをあらためて知りました。美しい色遣い、細かさや正確さに感動。
- ・昔話はよく知っているが、絵がとても面白く見ることができた。翻訳された外国で紹介されたのは初めて知った。擬音語を外国語に訳すのは難しいものだ。
- ・ちりめん本は知りませんでした。研究者の努力でその奥深さを知り感動した。
- ・すばらしい一言。特にちりめん本には、おどろきました。できれば東北の写真等もう少しあると良かった。
- ・ちりめん本をさわったり見ることができてよかったです。
- ・うらしまろうの本が英語であったのが驚いた。昔の人の絵は今の絵と全然違い、現実的だった。
- ・ちりめん本を今回はじめてみて、すごいと思った。その他にも、昔に日本をすることができてよかった。
- ・ちりめん本とは布を使った物かと思いましたが、より貴重な紙製と知り驚きました。
- ・はじめてちりめん本を知るとともに紙のやわらかさに優しさを感じました。また、その技術に感動しました。
- ・カレンダーがとても昔に作られたものとは思えないものでした。特に、五重塔のカレンダーがすてきでした。
- ・美しい欧文挿絵本<ちりめん本>の所ではジックリ楽しませて頂きました。
- ・ちりめん本の技術に圧巻しました。こういった技術はぜひ残してほしい物だと思いました。来て良かったです。
- ・白黒写真だけかと思ったら、着色したものもあり、驚いた。とても勉強になりました。非常に教育上の価値も高く、しかも面白くもある貴重な展示と思います。
- ・これだけの写真を見るのははじめてです。時代の詳しいイメージがわいてきます。
- ・明治、大正のものは、かくもあったかと興味深く、昭和のものはなるほど懐しやとの思いを深くした
- ・明治から約140年。この写真みるかざりでは、世の中はすごく発展したものと改めて考えさせられました。
- ・なつかしい写真を数多く拝見し、曾祖父母、祖父母の姿と教えを思い出しました。ありがたいです。
- ・珍しい映像ばかりで、近代歴史に興味がわきます。ふり返る時間がもてました。
- ・震災や日本の事について見たりでき、よかったです。
- ・昔の写真などよく残っていましたね。小泉八雲のこと、もっと勉強しよう。偉い人だったんだ
- ・当時にタイムスリップしたようだった。写真の中の、当時の人々の格好や表情に現実味があった。
- ・貴重な資料だと思います。この時代の庶民の暮らしむきは全国的にはほぼ同等（地域格差が少ないのでは）と思いつつながら観ました。
- ・3Dに見える写真はすごかった。関東出身なので、横浜など知ってるところが多く楽しかった。見たことのない写真ばかりでびっくりした。
- ・とてもなつかしく知らなかった事、子供の頃を思い出すこともありとてもすばらしい企画です
- ・少し前の日本人の写真の表情に少々こわさを感じました。たぶん写真の色のせいでもっと豊かな表情がきえたのか今回の写真がリラックスすぎるのかはわかりませんが。私がまだ3才ごろ、大きな荷物をせおった浜からくるおばあちゃんがいました。祖父の家には五右衛門風呂があり、カヤがあり、トイレが外、おけやさんもありました。よい時代だったのか貧しい時代だったのか、でも、新しいことへのおどろきは今以上にあったように思います。
- ・日本の歴史の一端として大変貴重な写真であったと思う。未来を託する子供達にも是非、見せたいものである。
- ・明治時代に、着色した写真のあることなど、全く知らなかった。現代の写真術にまさるとも劣らぬ作品群におどろきました。
- ・写真の時代は書いてますが大体の場所（県内か、他県か）表示あれば尚、結構と思います。
- ・明治期の日本は今よりずっと活気があってとても素敵だなあ。と思いました。もし願いがかなうならタイムスリップしてみたいです。
- ・歴史にあまり興味はなかったけど、写真を見たら歴史が身近に感じられ、明治時代って面白いんだな、と思った。
- ・庶民生活の写真が面白かった。上野の大仏初めて知りました。
- ・特に3Dの写真はおもしろかった。想像していた立体画像とちがっていた。むかしの風景がほのほのしていいと思った。
- ・昔なつかしい原風景や貴重な史跡あるいは人々の様子が浮かび上がって、とても感激しました。過ぎ去ったものは本当に美しい風景があったと思う。
- ・フェリーチェ、ベアト、はじめて知った名。よく当時の日本を記録してくれていた。楽しく見学できた。
- ・目で見る歴史・風俗が文章よりもインパクトがあることを感じました。
- ・3Dが明治の初期からあったことにおどろいた。
- ・日本伝統の重さや、写真技術の素晴らしさに保存状態も感動致しました。
- ・圧巻です！書籍で見たことはあっても、大きな画面で見るとスケール感が違います。キャプションの説明も判り易い。
- ・古写真、古ハガキ大好き。こんなにたくさん無料でみられて幸運でした。催しに気付いたのは昨晚でしたので、後から気付いていたらさぞぐやしい思いをしたことでしょう。惜しむらくは照明と採光。展示が反射して見えづらいところが多々ありました。でもゼイタクは言えません（作品が痛まないかだけ心配でした。短期間とはいえ）。
- ・思いがけなく古き良き時代の古写真、ちりめん本、童話にふれとても感激しました。



 **放送大学**

 **放送大学** 宮城学習センター

〒980-8577

仙台市青葉区片平2丁目1-1 (東北大学片平キャンパス内)

Tel: (022) 224-0651 Fax: (022) 224-0585

E-mail: miyagi-sc@ouj.ac.jp